

題 材 名	安全に住むにはどうしたらよいだろう							
内容・項目	A- (4) イ							
指導時間	2 時間							
題材のねらい (題材の特徴)	<p>本題材では、誰もが安心して生活することができる住まいの在り方を考え、住まい方を工夫することができることをねらいとしている。</p> <p>災害や家庭内事故の被害を考えると、危険箇所の点検、日頃の安全対策や安全管理等、本題材の学習の必要性は明らかである。</p> <p>誰もが安心して生活できる住まいの在り方をとらえるには、様々な立場から建物の構造や施設・設備を観察する必要がある。</p> <p>よって、疑似体験を通して身近な危険箇所に気づき、誰もが安全に住むための工夫点について考えるという、目的を明確にした体験活動を取り入れた。</p>							
指導の流れ (展開の工夫)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>時間</th> <th>指導項目</th> <th>主な指導内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1 時間</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>疑似体験をしながら校舎内を巡回し、校舎内の危険箇所を調べる。</li> </ul> <p>※疑似体験のグループ</p> <p>A：高齢者体験 B：障害者体験 C：幼児体験 D：妊婦体験</p> </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>家庭内の事故原因をクイズ形式で生徒に問いかけ、家庭内での事故の起きやすい場所や原因を考えさせる。 【学ぶエネルギー】</li> <li>身近な住まいとして「校舎」内の危険箇所を調べることを伝える。 【学ぶエネルギー】</li> <li>様々な立場から住まいの安全について考えられるように、疑似体験をすることを伝える。</li> <li>グループは、体験者1名、介助者2名、記録者1名で構成する。 【意思決定能力】【かかわり】</li> <li>危険箇所に気づくことができるように順路や活用内容を具体的に指定する。</li> <li>順路は、他教室の授業の状況を配慮し、校舎内案内図に順路を示して配付する。</li> <li>グループごとに下記のような疑似体験をさせて順路を回らせ、危険箇所の記録をさせる。 【学ぶエネルギー】【かかわり】</li> <li>A：アイマスクや耳栓を付ける。</li> <li>B：足に添え木をして固定したり、指にテーピングを巻いたりする。</li> <li>C：視界が狭く見えるメガネをかける。</li> <li>D：米袋を入れたリュックを腹部側に持つ。</li> <li>疑似体験終了後グループごとに着席させ、体験時に記録した危険箇所をまとめさせる。 【意思決定能力】【かかわり】</li> </ul> </td> </tr> </tbody> </table>	時間	指導項目	主な指導内容	1 時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>疑似体験をしながら校舎内を巡回し、校舎内の危険箇所を調べる。</li> </ul> <p>※疑似体験のグループ</p> <p>A：高齢者体験 B：障害者体験 C：幼児体験 D：妊婦体験</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭内の事故原因をクイズ形式で生徒に問いかけ、家庭内での事故の起きやすい場所や原因を考えさせる。 【学ぶエネルギー】</li> <li>身近な住まいとして「校舎」内の危険箇所を調べることを伝える。 【学ぶエネルギー】</li> <li>様々な立場から住まいの安全について考えられるように、疑似体験をすることを伝える。</li> <li>グループは、体験者1名、介助者2名、記録者1名で構成する。 【意思決定能力】【かかわり】</li> <li>危険箇所に気づくことができるように順路や活用内容を具体的に指定する。</li> <li>順路は、他教室の授業の状況を配慮し、校舎内案内図に順路を示して配付する。</li> <li>グループごとに下記のような疑似体験をさせて順路を回らせ、危険箇所の記録をさせる。 【学ぶエネルギー】【かかわり】</li> <li>A：アイマスクや耳栓を付ける。</li> <li>B：足に添え木をして固定したり、指にテーピングを巻いたりする。</li> <li>C：視界が狭く見えるメガネをかける。</li> <li>D：米袋を入れたリュックを腹部側に持つ。</li> <li>疑似体験終了後グループごとに着席させ、体験時に記録した危険箇所をまとめさせる。 【意思決定能力】【かかわり】</li> </ul>	
時間	指導項目	主な指導内容						
1 時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>疑似体験をしながら校舎内を巡回し、校舎内の危険箇所を調べる。</li> </ul> <p>※疑似体験のグループ</p> <p>A：高齢者体験 B：障害者体験 C：幼児体験 D：妊婦体験</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭内の事故原因をクイズ形式で生徒に問いかけ、家庭内での事故の起きやすい場所や原因を考えさせる。 【学ぶエネルギー】</li> <li>身近な住まいとして「校舎」内の危険箇所を調べることを伝える。 【学ぶエネルギー】</li> <li>様々な立場から住まいの安全について考えられるように、疑似体験をすることを伝える。</li> <li>グループは、体験者1名、介助者2名、記録者1名で構成する。 【意思決定能力】【かかわり】</li> <li>危険箇所に気づくことができるように順路や活用内容を具体的に指定する。</li> <li>順路は、他教室の授業の状況を配慮し、校舎内案内図に順路を示して配付する。</li> <li>グループごとに下記のような疑似体験をさせて順路を回らせ、危険箇所の記録をさせる。 【学ぶエネルギー】【かかわり】</li> <li>A：アイマスクや耳栓を付ける。</li> <li>B：足に添え木をして固定したり、指にテーピングを巻いたりする。</li> <li>C：視界が狭く見えるメガネをかける。</li> <li>D：米袋を入れたリュックを腹部側に持つ。</li> <li>疑似体験終了後グループごとに着席させ、体験時に記録した危険箇所をまとめさせる。 【意思決定能力】【かかわり】</li> </ul>						


<p>指導の流れ (展開の工夫)</p>	<p>時間 1 時間</p>	<p>指導項目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校舎内の危険箇所と安全に住まうための改善策を話し合う。</li> <li>・GT の講話「住まいのバリアフリー」ついて聞く。</li> <li>・まとめをする。</li> </ul>	<p>主な指導内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・疑似体験終了後グループごとに体験時に記録した危険箇所をまとめさせ、誰もが安全に住むための改善策をグループ内で話し合わせる。 <b>【学ぶエネルギー】【かかわり】【意思決定能力】</b></li> <li>・各グループで話し合った危険箇所と改善策を発表させる。 <b>【かかわり】</b></li> <li>・GT の講話を通して、誰もが安全に住まうためには様々な工夫が必要であることに気づかせる。 <b>【学ぶエネルギー】【かかわり】</b></li> <li>・実生活にふり返って住まいの危険箇所・改善策や、授業の感想を書かせる。 <b>【学ぶエネルギー】【意思決定能力】</b></li> </ul>
--------------------------	--------------------	---	--

題材で使用する  
学習プリント例

### 誰もが安心して住むにはどうしたらよいらう

知 習 目 録

1. 住まいの中で、どんな危険箇所をさがしたらよいらう



2. ままがまの危険箇所を調べて、実際に感じたことや、想像に感じたことをまとめよう。

(1) 学校での疑似体験を通して、実際に感じたことや、想像に感じたことをまとめよう。

△ 座：もし、高齢者だったら → 高齢者の疑似体験	
□ 座：もし、障がい者だったら → 障がいの疑似体験	
○ 座：もし、高齢者だったら → 高齢者の疑似体験	
◇ 座：もし、障がい者だったら → 障がいの疑似体験	


わたしは( )階「 」の疑似体験をします。	危険な場所・不慣れな場所の改善方法

(2) 発見や作った想像を書こう。

**疑似体験の方法・順番**

- 1コース・・・2階下～階段
- ※ 階段を上り、降りてみる。
- 2コース・・・2階スロープ付近をトイ
- ※ 1 目目は補助なしで、入り口～スロープの間に立つ。2 目目に補助がつく。
- 3コース・・・昇降機のスロープ
- ※ 1 目目は補助なしで、階下～スロープ～昇降機～スロープ～階下。2 目目に補助がつく。
- 4コース・・・昇降機～2階下～昇降機～昇降機
- ※ 1 目目は補助なし (階段中に声をかけない、声に聞かれない)、公衆電話までたどり着いたら、帰りは補助が入る。
- 5コース・・・昇降機～1階下～昇降機～公衆電話
- ※ 1 目目は補助なし (階段中に声をかけない、声に聞かれない)、公衆電話までたどり着いたら、帰りは補助が入る。
- 6コース・・・昇降機～1階下～昇降機～昇降機 (自分のクラスの下駄箱まで)
- ※ 1 目目は補助なし (階段中に声をかけない、声に聞かれない)、下駄箱までたどり着いたら、帰りは補助が入る。
- 7コース・・・昇降機～0 階～玄関～昇降機 (自分のクラスの下駄箱まで)
- ※ 1 目目は補助なし (階段中に声をかけない、声に聞かれない)、下駄箱までたどり着いたら、帰りは補助が入る。

**疑似体験の注意事項**



- ※ 補助なしの階段中は、絶対に声をかけない、声に聞かれない。
- ※ 補助中は、階段や手すりなど、ポイントの箇所を指さす。
- ※ 校長、階下では特に安全に気を配る。

<p>準備・材料等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・GT (JIS センターの職員)</li> <li>・アイマスク、耳栓、添え木、包帯、テーピング、米袋、リュック</li> <li>・視界が狭く見えるメガネ (インターネットでダウンロード)</li> <li>・学習プリント</li> <li>・発表用フラッシュカード</li> <li>・ペン</li> </ul>
---------------	--